

春

雷

第二号

釜ヶ崎越冬対策特集

<目次>

- 越冬日記 (1)
- テント村の警備から (9)
- 釜ヶ崎労働者から学ぶ (11)
- 友人への手紙 (13)
- 釜ヶ崎越冬斗争に闘わって (15)
- 労働者の社会主義的積極性 (19)
- 越冬斗争に参加して (21)
- 整風運動について (23)
- 石子アールの涙をぬぐって (29)
- 関西新空港新幹線の闘いをまきおこそう (31)
- 11・19沖繩総統一行前に参加して (34)

大阪地区労働者解放戦線

釜ヶ崎解放委員会

12月31日 晴天

◇ふとん干しを行う。

◇午会、健康診断、血圧、尿検査、回診等。

◇ホテルの屋根に赤旗ひるがえる。

◇のど自衛大会、三角公園で臨時より始める。三百人程度が参加。百人程、歌う。参加費は富足（片竹用）以下

翌日付の「日刊」をうとつり

その日の頃は寒しかったな。テレビでどっの歌手が歌つてるのをきくんやなくて、俺たちの仲間といつしよに俺たちの大晦日をすごしたんや。みんな歌うまかつたなあ。

エノケンやつたあつさんほ（おまのまぬする

）没者や。炭坑節や釜ヶ崎人情を歌つたあつさんもいたなあ。女の子たちもまき子の藤江夜叉女

・労組歌（赤旗の歌）二、三

◇市立中央衛生相談所（四茶ヶは公園より）キロ程度のとこにある。（にて今時から表門シャッターを閉めたことについて、交渉

実行委側「年末年始オールナイトでやると云つたのと、なで表門を閉めるわけろ。」

中央相談「定期業ムは送った。後は裏門から相談にきてんか」

結果「中戸相談が「裏門」に廻つて下へい」という結果で表門に廻ります。

1月1日 雨、午後晴れる

◇雨のためもちつた（念中止）二日に、二の日の分とあわせて行く

◇夕方、中央衛生相談所が窓口業ムを打ち切ってくる

この日は、前夜イベントへ泊った人を午前中二回中庭へ入送るも夕方に三回目で帰ろうとしたところ、一

まうたつたんやぞ。

みんなで百人ほどのどき歌つたんやぞ。三角公園へ行った俺たちは数千人や、隣りがあつたらみんな歌うことができたんやけいな。

最後に竹く仲間の歌を歌われたら声が出んようになったんやぞ。

でも寒しかったなあ、俺の歌をみんなが聞いてくれたし、仲間の歌も俺が聞いたし、村お隊の兄さんたち60人も見守つてくれたし（炭坑や）しかし、歌いたりなかつたなあ。

歌の内容は流行歌、釜ヶ崎人情、浪曲子（歌）

（歌われる）・なにわ節（年祝の人）

・河内音頭（歌に言わせ二、三人が踊り出す）

・聖者の行進（若者）・民謡（炭坑節、赤

太鼓節もそこ）、国歌（二、三人）

方的打切りに合った。

「日刊」をうとつりより2日発行

俺達に「死ぬ」と

云うのか。

女中められた中央相談の窓口

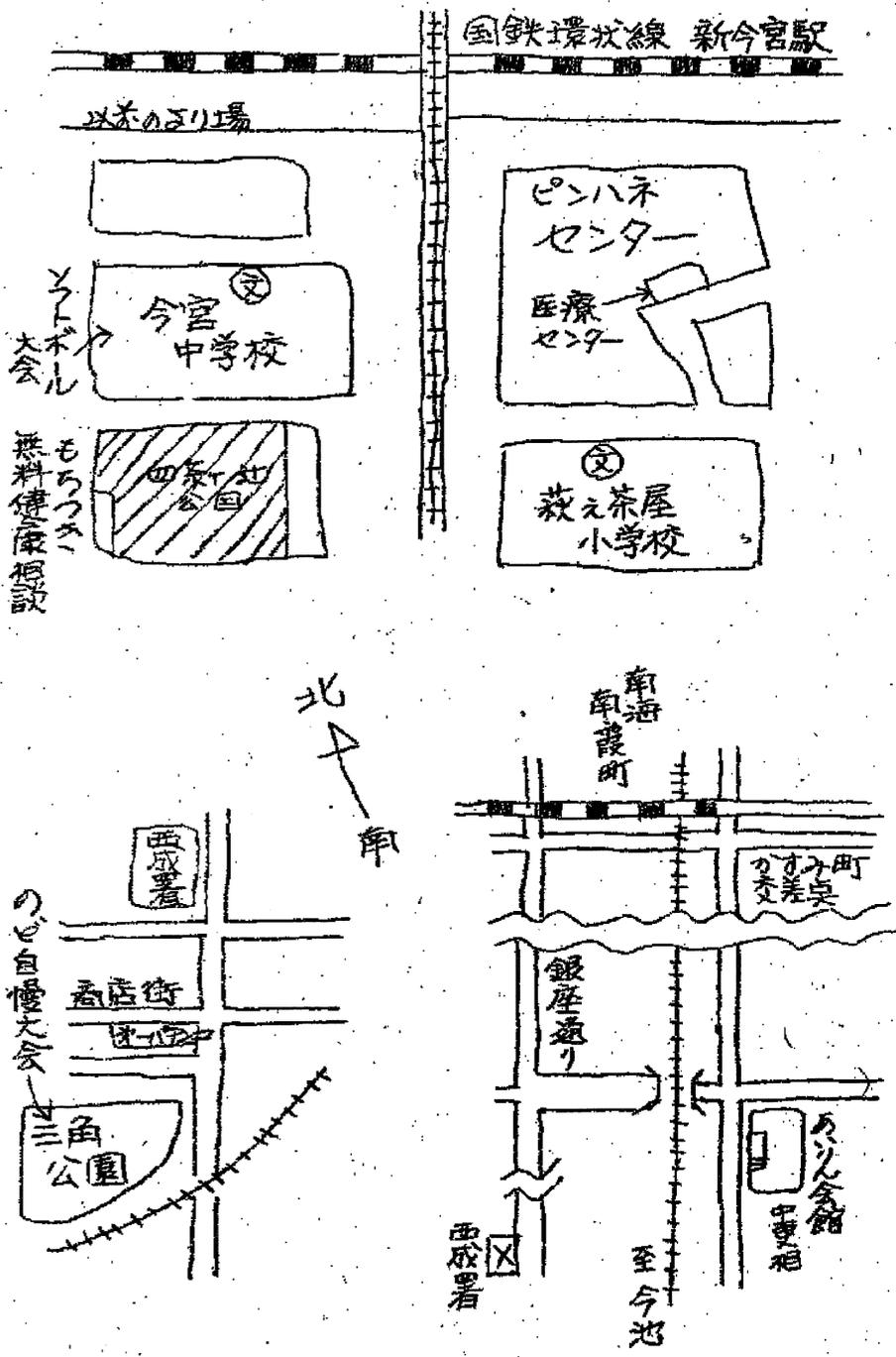
二日の昨日、更生相談所へあいりん念館（の窓口ない）となり用がられた。それは、どうやら市民生協のエイイさんのさしひねらしい。

これで俺達釜ヶ崎片州者の甲さいくら困つたもんがあつても、どうしようもなくなつてしまったの。仕事なんかあるわけないし、体こわしてる人間でも水飲んで青カシとけ、とあいつは言いたいらしい。

金のこと知らんにもほどがある。俺達のこと全然知らん人間が後の行政やってるんやからたごが悪い。それに俺達に何だそ何だもマソはっかかりつけてきた。

俺達は市民生協と二回の団交をした。その中で役人

(釜ヶ崎越冬地図)



テント村の敬告備から 笹省三

25日(26日)のントロール、権り飯配付活動と受け継い、謝るにかかった。その際、無断でテントに入りこんで寝
 で、30日(4日)朝までは西条ヶ辻公園にテントをばらして、まいる人達には「心配させてもって、我々がテントの
 の越冬斗争となったが、とりわけ一日は行政(市)中で寝たのは青ガンの(野宿)している者はみえむ二緒
 が当初の約束である「正月期間も中央更生相談所の窓で、病人や疲弊の激しい者、年寄りから順番に寝てもら
 口を閉く」ということを、テントが満員であるという理、おつと思っ、いので協力して「拒外」出まはし「バ」と
 由で一方的に窓口業務を打ち切った。為、実行委の予、いつ趣旨のことを説明していった。
 想を大幅に越し、一日平均二百名程がテント村(公園)として問題の起きたテントでも同様のことを言ったの
 に集まる結果となった。必然の事は飯の配分、テントだが、無断で中にいた二人の向で口説き始まり、つかみ
 の収容能力等から、数多くの問題をかかえた。その一、同じだった(この二人をA、Bとする)。「この過程を
 簡単に書くとAの方は我々の説明で納得し、出るつも
 りで横に寝ていたBにもおまを介したところ、Bが「も
 う寝ておのにかたかたなうむ」といったことから、一
 一

争の現場は、パトロール班が午後7時の定時、パトロー
 ルに出かけてから、我々テント村の敬告備はそれまでの
 経緯からその日もパトロール班が退勤音、病人等を発見
 し連れ去るといっ想定の上で、各テントの収容能力を
 その後A、B共外に出て再びびびり合ってしまった。

といつてもさかむかつたお。ちゃん。こんどに積極的
仲間のために働く人々がたくさんいることを知り、釜ヶ
崎の労働者のもう自覚性のすばらしさを痛感した。
その反面、誰に頼ることもできず、自分で自分を苦し
め酒を飲んでその苦しみを感じようとしていた労働者が
多々いることも知った。手にケガをした一人の労働
者が医療センターにはこびぬされた。かむり出血をしてお
り、ときりに死なせまくれ。オレは死んでもええんや
。といつていたが、まわりの労働者のほけまじに、オ
レには子供がいんや。といふ。他にも自分でも体によ
くないと思ひながらも、酒を飲み、酒でものを足りずし
うちゅうを飲んでいふという労働者。今年の秋まで本當
に多くのことを学んだ。釜ヶ崎の労働者ひとりひとりか
かかえていふ問題を私たちが真剣に自分自身の問題とし
て、共に解決してまいく。釜の労働者から信頼される人間
にならう。これは口でいくら云つても信頼されるもの
はななく、真剣に釜の労働者のことを考へて、釜の労働

友人への手紙

浅野 宏

前略、手紙を書くことになっていきましたが、遅れて申
しわけありません。

大阪に采でからの報告をしますと、——十二月二十五
日から、釜ヶ崎（以下釜とのみ書く）の夜間パトロール
へこれは、路上で野宿（青カンという）している労働者
を、病気の人は病院に送つたり、おにぎりをつくほつて歩
いたりを行っていました。公園にテントをはって、野宿（
青カン）をしている労働者に提供したり、病人用テント
を作り、軽度の病人はこの中で治療したり、メシを食つ
てない人にたき出しをしました。

五日以後、釜を極からながめただけでは、全く釜の状
況も、釜の労働者の意識も理解する事ができないという
認識の下に、僕自身、釜で日雇い労働者を行っています。
釜の労働者は、「労働者」と呼ばれ、差別されていま

者の望んでいふことを私たちが実行するからによつて信頼
関係が生ずるであらうと思ふ。私たちの越冬闘争にも亦か
わらず、何んかの死人を出したことを切実な問題として
見えぬ闘争を今後の課題として考へていきたいと思
ふ。

す。これは、支配者が、人民内部を分裂させ、支配を容
易に行うために、「部落（民）」を作り出しように、彼
らの分断支配の一つです。（部落差別は、今もなおつづ
いている現象がありますが、それは後日にまわします。）
労働者でありながら、労働者とは異なるものであるかの
様な意識を生みださせる「労働者」の存在は、支配のみは
必要なのであつて、我々には必要ありません。それど
ろか、かえつて、革命の準備を遅らせるものでしかなく、
この「差別」は、打倒以外の何物でもありません。

釜の労働者は、他の労働者のいやがる様な労働を強制
され、なおかつ、他の労働者が「日本の繁栄」へ日帝
の国外からの搾取（のおぼれにあずかっている（債上
は、日帝のおぼれにしかあずかれないのだ）の）に比べ
全く、日帝のおぼれにもあずかれない。徹頭徹尾搾取

され、取奪された併作者なのです。

マスコミ界を通じて、釜の現状、一面だけを誇張され、ワイロされて宣伝されています。

畢竟、釜の大部分の併作者は、油なしでぼろぼろにけかない。だが我々は、なぜ釜の併作者が油を飲まざるをえないのかという本質を見なくてはならない。畢竟、僕も日産の併作者を行って、毎夜の様におんのおんをい、酒でものまないという心算です。

人のいやがるような併作者を強制された併作者の性格、使いたすのきく併作者として（支配者の政策）、他の併作者と差別された（支配の構造）、又、釜の併作者の心理に「二つ二つ飲屋、暴行団、ヤマン下ル等」の類までしやぶらぬ（資本主義の必然）等々といったことが、釜の本質です。

僕の肉體意識は、資本主義に徹底的に搾取抑圧されて、併作者に依拠し、彼らの「問題」、「存在」を自分の斗争の中にどの様に映し、反映させていくのかとい

うことです。彼らの存在のために革命は一切語りえない。

彼らは、革命は知らなくとも、支配者（ボリ）に対する憎しみは、絶対であり、以上の釜の本質から必然的に、体であじわられた結果です。（暴動こそその表われです。）彼らの権利に対する憎しみは、学生の様には、頭の中で革命を考えた者以上に徹底してあり、社会の革命を願って、いる。しかし、その方法が理解できずにいる。

結論として、へ革命の方法、指向には全く現時点ではあるが、唯よりも革命を必要とし、潜在的な革命勢力で14あるといえる。

学生やインテリ併作者に対する工作よりも何倍もむずかしく、長期的な工作も行わなくてはならないが、彼らが決起した時、日本革命の内実は、変化する。

以上簡単にから報告と釜に対する自分の認識を書いてみました。

釜ヶ崎越冬斗争に突っついて

釜田 信康

(山)

釜ヶ崎越冬斗争資金確保のため天皇までカンパ、情宣活動をやっていた時、甲斐の里の子が我々の渡した日記を讀み、いかにも納得いかないという様な顔をして「兄ィちゃん、釜ヶ崎に餓死者が毎年三〇〇名くらいも出ると書いてあるけど、ホンママア上と書いた主旨の事を我々の仲間にも聞いてきた、という事を僕に聞いた。その里の子の家庭は上層階級に属するらしく、里の子は更に「自分の今の生活から考えれば全く不思議じゃない」と、又「兄ィちゃん、このどうの内容嘘だらう」とも言っただけらしい。

僕は二の事を聞いて無性に怒りを覚えた。この里の子が疑いもなく、素直に発したこれらの言葉そのものが、現在の日本資本主義社会を形成しているのだ。

マスコミや教育機関などは、ソレスタナやバキスタン問題については大々的に報道し、教している（米帝、ソ社会とそのキチキチもた侵略者であり、彼らがソレスタナ、バキスタンを蹂躞しているという本質問題にはふれていない）反面、日本内訌のそうした事象を一切葬り去っているのである。

オリンピック、万国博などを開催し、又、冬季オリンピックをも開催しようとしている、国民総生産世界第二位の大国・日本に餓死者など口出るはずがないとして、支配者どもにとって、都合のいい事だけを大々的に強調する事によって、人民に対する搾取、抑圧と、その矛盾の一切をつみ隠さうとしている支配者どもに対して怒りを覚えるのである。

この事は、併州者階級の側になり、斗争者の宣戦が確立されていなく、現在の我々の運動ではない。我々の運動は、併州者階級の側になり、斗争者の宣戦が確立されていなく、現在の我々の運動ではない。

(2)

であるが、しかし支配者どもは全ゆる併州者を使つて必死になつて都合のいい事だけを強調しているという事は、併州者階級の側になり、斗争者の宣戦が確立されていなく、現在の我々の運動ではない。

だが支配者どもは守口は巧めである。単に都合のいい事だけを強調するだけでは自分たちの弱点を暴露される、併州者階級の側になり、斗争者の宣戦が確立されていなく、現在の我々の運動ではない。

恐い所だ」と大言壮語する中に於て差別構造をつくつてい、併州者階級の側になり、斗争者の宣戦が確立されていなく、現在の我々の運動ではない。

会・もうつぎ大会などを行つたのである。

この越冬斗争を取り組む過程に於て「これは本当は国、(一)府、(二)市、(三)がやるべきものであつて、それを我々がやるのは全く行政の用ぬぐいになるのではない」といふた意見があつた。しかし「この上意見は全く正しくない。何故なら仲同志で助け合つていく事自体が行政に對する圧力であるし、併州者階級の側になり、斗争者の宣戦が確立されていなく、現在の我々の運動ではない。

又、越冬斗争の終結集会の際に「越冬斗争は何のお祭り気分がした。それは益々併州者階級の不満などを行政権力に向つてせよとするものではなく、併州者階級の側になり、斗争者の宣戦が確立されていなく、現在の我々の運動ではない。

確かに越冬斗争益々併州者階級の側になり、斗争者の宣戦が確立されていなく、併州者階級の側になり、斗争者の宣戦が確立されていなく、現在の我々の運動ではない。

その事はまことに個々バラバラに起っている労働者の団結
への一里塚の場なのである。この一遷として遂に越冬
斗争があったのである。

そののと自衛大会に於て、われわれもどマイクを取
り合いをやる中に於てもきちんと順着と並んで入る。う
まいは全く関係なく、自分の好きな歌やものまねなどを
やった事象。又ソフホール大会に於ては、チーム作り
をかつて出で、労働者に呼びかけて回っていた労働者が
あった事象。又た火に燃え上っている多くの労働者が金
とほとんどなく、タバコをもっていないから、と言っ
てた火に燃えている労働者にキャンを呼びかけ、五円、十円
とある者は出し合つてまとめタバコを買つて、みんな
を吸おうと提案し、積極的に動き回った労働者のあった
事象。等々と列挙していけばキリがない。

こうした事は当り前であり、何も改めて言う必要のもの
ではない、という者がいるかもしれないが、決してそ
うではない。我々はこうした労働者の積極面を正しく評

価していかねばならない。そして正しく分析していかね
ばならない。そういつた中からこそ、釜ヶ崎の全ゆる連
年の展望が見い出せるものと、僕は確信する。

今回の越冬斗争の成果は、越冬斗争にかけられた全ま
の者が越冬斗争に於て学んだ事を自らかきかかっている
運動に吸収し、そしてその運動を如何に発展させていく
ことかであるの、どうかかかかかってくるのである。
最後に、今後の越冬斗争において解決すべき問題を書
いておきたい。

- 一、労働同盟を結成し、あつて越冬斗争をやつてしま
から、釜ヶ崎以外の地域には積極的にキャン、情實
活動などをやつたが、釜ヶ崎労働者に對しては非常に
消極的であった。
- 二、本場に困った労働者に對して、たすけなどば茶
り行かなくてはいけいのではないが、という批判に對
してとて地味謝意をやる必要があると考える。

労働者の社会主義的積極性

西田 亨

われわれがこの越冬斗争をなすたりのかについて、教
育確証したわけですが、その一つとして年間三百余人に
及び労働者が道にたて、公園の古すみで死んでゆくのを
同じ友人仲間同士が助け合い、病死者を出すのを防ぐこ
とであった。

どうにかこうにか飯の食える者、トマの確保ができて
いる者、又それ以上の条件にある者が、死にゆく仲間が
かわいそうであるのか、なにかをわづらひブルジョアに
ニズム、同情的な立場からこの斗争を取り入れている
ブルジョアもあつた。このやうな立場から見てく
ると、この斗争は、毎年三百余人に及び死にゆく労働者
の、資本家共にも入る人々に使われ、その後必要がなくな
るとのボイも持ち捨てられたのである。さうして機械の部
品のやうである。このブルジョアに對する態度は、身体

的に彼らを打倒する方向に向かわなければならない。この
す。なくくもして、人間がわれわれをもつて、
そのやうに、ブルジョア共の道徳もして、われわれ
をし、その姿勢はそれの少しも変わるのではありません。
その人が善悪の持主であつても同情するもの、
に自己満足させるだけのものにすぎない。

労働者人民に積極性を發せ、ブルジョアに對する態度
を、われわれを打倒するためには、半分の力をこめて
に、ブルジョア共の道徳も、われわれのやうに、
に、われわれに、われわれのやうに、われわれのやうに、
が十分に認識したてふれても、われわれのやうに、われわれのやうに、
ブルジョア共のやうに、われわれのやうに、われわれのやうに、
分けて、われわれのやうに、われわれのやうに、われわれのやうに、

描かれて気がついたのです。

橋が夢んだ一つのこぼれとして、そ次東同志が指摘して
いる「大衆の中には、さきわめて大きな社会主義的積極性
がひそんでいる」と言う果てである。実行季のメンバー外
の労働者の中から、数多くこの斗争に積極的に参加する
労働者が出てきた。炊事を離職に就いてする人、テント
会場を朝から晩まで、スミカウスミカウスで掃除する人、ソ
フトボール大会において労働者のチームを組織する人、
パトロールに参加する人、ドヤのおぼろちゃんのおきて行
ってカンパを集めに行く人、トントン（たき火）の材木
を遠くまで取りに行く人、俺の目についた範囲だけでも
積極的行動をまわする人がこれだけあった。実行季の人達
の活動もなるこどながら、労働者のこのような活動があ
ったが故に今回の斗争が支えられたように考える。

なぜ、労働者の中にこのような変化が表われたのか。
われわれは人民に奉仕するのを決意し、その実践の一
つとしてこの斗争を行ったにせよ。そして初めに書いた
弊に生き生きとし、喜びに満ち満ちた顔をして動いてい
るのです。これが本来の労働者の顔ではないか、姿では
ないか。すでにプロレタリア権力を握った朝鮮、中国、
ベトナム、キューバの労働者人民の顔におそらく似てい
るのではないかと考える。

き主席は次のように指摘しています。
「人民大衆は限りない創造力をもっている。かれらは
初めて越冬に参加して、今までの私の運動に対する誇
勢、意識に胸して全面的に本意を向われた五日間だった。
私は釜ヶ崎を知らなかったし、この越冬をなおやらなく
それがわかった。

まず自分と釜ヶ崎労働者との生活意識の違いだ。今ま
まではとにかく運動をしなければならぬ、というた
り、

越冬斗争に参加して 堀川 康子

どうにわれわれが同じ仲間同士であると言った態度
で、その実践が労働者に、部分的にはあるがわれわれ
に対する信頼として、このような変化を生み出したと思
う。だからと言ってわれわれの人民に奉仕する態度の裏
面が十分だったとは言えないし、逆に不十分なもの
もあっていて、この方が多くあったのではないかと感じま
す。

ここで明かにしておかなければならぬことは、わ
れわれが徹底して人民に奉仕してゆく中にしか、人民大
衆のわれわれに対する絶対的信頼を得ることが出来
ないと言っているのだ。
そしてこの斗争が、支配者共により日常不断に砂の
どくばらやうにされてきた釜の労働者が集団として、又
その一員として動くための媒介になり得たことだ。積極
的に動く人々は、ささしく自分の利益のためにだけに動
いてくるのではなく集団のために動いているのであった。
そのことは、自分の言葉よりその労働者の顔を見れば解る
であろう。

自分を組織して、自分の力を發揮できるすべての場所や
部内に向って進軍し、生産の向上と拡大に向って進軍し
自分のために日一日と多くの福祉事業をおこなうこと
ができる」
「人民、ただ人民のみが世界の正史を創造する原動力
である」と。

た毅然としたところを活動に現れこんでいたような気
分がある。はつきり階級意識も持たぬままに、何かにかり
たてられるような思いでその隣桌でしかどう考えていたの
かと思ふ。

なぜなら活動の反面では、自分自身法向上、将来への
見越し等、無意識のうちに私欲の身を持って日常を度

つていたのだから、それは活動をどこかで分離してとら

えている事実の表われである。あの被服行動を決定的な
遣いを感じた。彼等は裸でいつも身構えている。身体一
つの外になにもをも失うべきものもなく、彼らはなに
をも恐れぬ気概をみな、きりせている。

釜ヶ崎の若者に、今日、明日という時間の限はない
のだ。仕事においても、私は安定性を重視した態度を確
別してきたし、その上でこそ地 についた活動ができる
と思つていた。まったく別々に考えていた事の証明であ
る。しかし、秋を斗争にむけた時、階級斗争は運動と

は、値上げ反対運動等ものものの生活上の要求斗争以外
の問題であり、それは生死にかかわる生命の要求斗争だ
と思つた。

現在私は釜ヶ崎以外の地に住んでゐるし、下層労働
者に接する機会も少ない。これからはいろいろな機会を
通じて釜ヶ崎に接して行く事だ。そして、この目、こ

整風運動について

北村 始

(一) 南大阪解放戦線と整風

革命という大事業をよりよく担ふことが出来る時に、
整風運動を「現在もやり、将来もやって、たえず自分の
体についている誤つたものを一掃しよう」と「書信」オ
一号はよびかけた。この提起はきわめて正しい。

我々、解放戦線戦士は、整風運動を、具体的な実践か
ら遊離した単なる「おしゃべり談話」に墮落させること
に反対する。机上の空論から革命運動を生み出すことは
できない。従つて、「討論の爲のテーブルでは、革命家
たちの意志統一・団結をかりとることはできない」(マ
リアーナ)という提起を眞剣に受けとめることが必要で
ある。

M-1同盟から整風運動が提起された時には、私は獄中
にいたが、その後、入牢から出てくるまで平等を讀む限り

くのだ。
おすかの新聞だ。Eが、より集まって生活し、過去の問
はずはらしい思いつさも出だし、それそれ自分の気の
ついた憂鬱でみんなで喘ぎしあつていた。その奥では、
気がついた事は自然に進んでやるといふ気概は湧り湧り
していると想つ。過去はこればかりで続くだらうし、後
の事はならぬ。何よりも採取、抑圧されている労働者
が団結できる場をたくさん作る事だ。そして、一人一
人が後いつの日かを築めることが出来ると思つ。

では、整風運動の大部分が単なる概念的な「おしゃべり」
に墮していることを痛感した。だから、獄外の戦士たち
にたずねたは「ことと云えば唯一つ、」で、一体、今何を
やっているのですか」ということであつた。それくらい、
整風運動は具体的な実践を欠いていたのである。そういう中に
おいて、南大阪解放戦線の同志たちは、きわめてすぐれ
た問題意識をもつていた。

すぐれた側面として次の点があけられる。
(一) 整風運動は、具体的な革命運動であることを理解し
ていたこと。従つて、「言葉」の上で口で整風を云々す
るのではなく、南大阪の具体的な実践をもつて、整風と
は何であるかを全国の戦士に提起した。

「南大阪の権」の発行は、この上で非常に大きな役割を
果した。

②観念的な前提から出発せずに、現実から出発した
こと。「人民の生活に關心するよせなければならぬ」と
という指示に基き、人民の日々の利益を真剣に考え、

具体的な政策を打ち出したことなどに象徴的にみてと
ることが出来る。(具本例としては、保育所の設立、
釜ヶ崎越冬対策へのとり組み等があげられる。)

③そして右のような政策を實現しようとする中で、

人民の権利の樹立(武装自衛)の問題を追求したこと。
④入管斗争、節酒解放斗争のすぐれた点に学び、政
治と生活を結びつけ、感情と「理論」の分裂、本音と
たてまえの分裂を克服しようとしている。このことは、

「私の丁度」に見られる如く、きわめて重要な試みで
ある。このことを所与として整風を「行え」と「修養」
路線におらるのである。すなわち彼らは、客観的世
界を改造するだけでなく、その過程で、自己の主観
的世界をも改造しようと試みたのである。

⑤南大阪解放戦線の構成員の生活を強固に組織し、

なる生活を送っているのかとえ調査せず、従って今では

組織の構成員の生活より和らぎに「大衆を組織する」な
どと語っているのです。これは、大衆の生活など、と
して組織できるものではありません。——
動もこの二つの具体的組織の一つとして開始されたものである。へや一
男が活躍

自由主義ばかりに陥し、分散はあっても集中がな

いといった状況だろうと思います。はっきり云えば、革
命的な思想がかく得られていない、ということだろうと
思います。——「人民に奉仕する」という思想も、所
詮観念的にしか唱えられなかったのではなからぬと思う。

A君は(南大阪解放戦線を批判して)「規律がなく何
ができるか」と云っていたが、これは革命的な思想がな
くて何が出来るか、ということだと思ふ。打ち倒された
ければならない護った思想が存在しており、二つの路線

の斗いを押し進めていく必要があると思ふ。この二
つの路線の斗いを通じて、(我々は)発展をからとるこ

カロレタリヤ的な生活基礎を打ち立てようと試みたこと。
誤っていた側面としては次の点があげられる。

(1)幹部政策に失敗したこと。(革命の後継者を培だし、
養成することができなかった。)(宿下体制が確立しなかつ
たことは、必然的に南大阪解放戦線の崩壊につながったの
である。

②「人民に奉仕する」という思想をかく得ることがで
きなかつたこと。このことをいふまでも具体的に明らかにな
る前に、獄中において南大阪の同志たちに書いた手紙から24
若干引用したいと思ふ。

——この頃、関西の同志たちは、「大衆の甲から大衆の
中へ」ということを主張し、大衆の問題意識を振りおこ
し、「大衆の生活を組織しよう」として来た。ところが、
その大衆の中に在野戦士が含まれていたから、在野
戦士の問題意識を「振りおこす」の、獄中通信」の発
行で充分でなく、在野戦士が何を考えているか、いか
どかである。——M「南大阪」の批判をいふまえに出獄後、半年間
の斗争を総括する中で、我々は越冬対策にとりくんだ。

我々は、国家権力と対決している最下層の労働者——
彼らは現体制の中においては常に報われることがない——
と結びつくことを追求する中で、整風運動を貫徹した
——と思つているし、現実に行つてきている。

「今、斗いを中止して整頓をやり、それから斗おうとい
う者もいるし、二の斗いを終えてから整頓をやるうとい
う者もいる。我々は斗いながら整頓をやることを主張す
る」(「われわれ奮闘兵団はどこへ行くのか」という
立場を堅持するものである。

釜ヶ崎における越冬斗争は、我々の整風運動でもあり、
斗争の中で整風を行うことによつて、素晴らしい効果を
あつたことを実証した。

1. 実践の伴わない言葉

は空虚である。

釜ヶ崎越冬対策にとり組むに際して、実行委員会の中
で次の四点を獲得することが提起されていた。

(1) とりわけ年末年始においては、市内にも仕事がない
く、金も入らず、空腹をかかえ倒れていく者が、釜の傍

竹者の中から多数出るのにもひたすら、行政当局は手
をこまぬいている。そういう中で「救う救われる」の

関係ではなく、釜で働く同じ労働者として、自衛手段と
しての医、食、住の問題にとり組むこと。

(2) 自衛手段としての越冬対策を行う中で、これを具
体的な批判として行政当局につまづいていく。

(3) 越冬対策を行う中で、労働者との結びつきを追求す
る。

釜の現象を釜以外で起っている人々に知ってもらう
こと。

言葉の上だけで、行政当局、警察などの敵権力を批判
してもきりめて空虚である。具体的な行動が伴わなけれ

ば、「革命」を叫んでも労働者は決起しない。釜の労働

者が現象に直面しているが、一言一仕事がなく、金もなく、
空腹である。病気がかかっている。下ヤがない等々、

共に解決しなければ、我々は釜の労働者の友となること
はできないのである。

手をこまぬいている行政当局と「ほんのわずかの期間
であり、ほんのわずかのことしかできないが、自衛手段

としての越冬対策を推し進める実行委としては、釜の労働
者の目には、誰が自分達の敵であり、誰が味方であるの

かということが、はっきりと映るのである。従って越冬
対策を行うことにより、釜の労働者と結びつく条件を能

動的につくり出すことができるのである。

2. 党建設の方法を明らかにする

整風運動の中で、すぐれた法^法を行っている「在野の仁
士と協力し、……革命運動を進展させ、」党

建設の方法を明らかにしていくことが向われている。
越冬斗争という具体的な実践を共通基盤にして、釜ヶ

崎の斗争を今日どのように推し進めていくのかという点
について、相互に意見を交換し、地域における統一戦線

としての協議会のようなものを発想することが出来る。
これは現象に可能である。また実行委の提起している「

釜以外の人に、(越冬斗争を通じて)釜の現象を知って
もらう」という問題は、党建設における布石であり、全

国の戦士に対する党建設の方向の提起でもある。なぜな
ら、越冬斗争という社会的実践を基盤にして、共通の言

葉をつくり出し、相互の思想を検証しあい、それぞれの
人々が抱わっている地域の斗争と、どのようにつながり

をもち、相互に助けあつて国家権力と対決していくのか
という具体的な討論が展開できるからである。

おしるべり談話の中から党を打ち出すことはできない。革命戦争は
我々は敵権力との斗争の中で、団結の方法を明らかにし

ていくものである。そして「行動こそ前衛」であり、農
民にたいしては「人民戦線」に基き、人民の利益に合致

前線を闘う戦士によって指導部が構成されるならばなら
ないという見解を激固支持する。党建設の問題に關して

は、更に問題がつきつめられた段階であらうためて書きた
い。……軍事を内包する党の問題については

……はふいふい。
る。我々の力は、斗えは斗う

ほど強大になる

す。我々が、誠心誠意「人民に奉仕する」思想をこつて

革命戦争は人民の戦争であり、戦争をするには人民を動

員する以外になく、戦争をするには人民に依頼する以外

にないという人民戦線に基き、人民の利益に合致

する

する政綱を打ち出し、斗争を貫徹するなら、我々の力は、退しても、それはあたりまえのことである。

小から大へと転化していくことができる。人民戦争の具体的な例として、「弱上でもって「強」と対決し、「斗えは必ず勝利する」インドシナの革命陣力の事を我々は知っているし、彼らは斗えば斗うほど強大になっていく。

釜ヶ崎越冬斗争 においても、多くの斗竹者の決意を促すことができた。「テント村」の掃蕩を自発的に行う斗竹者、炊事のため水くみを行う斗竹者、カンパを要請し、青カンをしている斗竹者のためにタバコを買いみんなが吸えるようにした斗竹者等々……。

我々がやる斗争の内容を明らかにし、人民大衆のもつ限らない創造力を信じ、大衆の中にひそむ社会主義的積極性に依頼するならば、我々にとって克服できないような困難な問題が一体あるであろうか。

しかし、「人民に奉仕する」思想をもたず、「大衆に依頼しないならば、斗つても陣力は大きくなり、敗北せず、その発展もない」ということを学ぶことができた。ここでは深く「こんな闘争の問題については思っていない。

5. 人民に奉仕する

越冬斗争の中で、病気の斗竹者、飢えに斗竹者に接し、自分自身に対して無性に腹立たしく感じた。

なぜなら、釜の斗竹者に接して、非道直をもち、誠心誠意人民に奉仕することもなく生きていく自らの犯罪性を暴露されたからである。

私は、それまで続けてきた斗争の過程では、「死んでも敵刃には屈しない」とつもりであった。併し、そこには、誰の為に闘い、誰の為に生き、誰の為に死ぬのかという極めて重要な疑問が、強固に自覚を以ておらず、多分に宙ぶらりんになっていったと思う。

「人民の為に生きてこそ人民の為に死ぬるのである」という言葉が、越冬斗争を経た今日では、今日の自分自身

4. 会場 警備の問題について
越冬斗争の中で、とりわけ警備の問題は重視されなければならぬ。なぜなら、警備の問題は人民の敵力の問題の範疇に入りからぬのである。一言して越冬斗争に

する妨害活動があり、これをいかに取り除き、いかに越冬斗争を成功させるかということに常に考えながら、中でも、主に刀をかけたのは、敵刃の介入の問題であつた。「テント村」をいかに解放区にしようかと、我々の圧倒的な警備力が準備されていない限り、越冬斗争の成果は、一瞬のうちに水泡に帰してしまふのである。

我々は二十四時間の輪転体制をしいたが、常に一解即発の緊張関係の中に自分の身が置かれている事をひしひしと感じることができた。また、統一戦線の中には、自覚的な規律を備え、指揮系統のはっきりした、行動性のある部隊がないと、斗争の発展もなく、統一戦線もうまく自分の斗争に対する態度をおおいに改めさせるであろうと思っている。

以上、釜ヶ崎越冬斗争の中で感じ取ったことを若干書いたが、この斗争の中で、より一マルクス・レーニン主義をも正確な思想を学ぶことができたという感想をいいたい。

マルクスルの涙をぬぐう

(最下町斗竹者結び)

吉田 杏子

私が釜ヶ崎越冬斗争に参加する直接の動機は、世間一般で山崎村だや山正月だと騒いでいた時、釜ヶ崎本場に霜を踏み付けながら人々(斗竹者)が生死の境に置かれている状態を私自身どうするのかという問題意識からなので、三十日(具体的には三十一日)から四日にかけて、次の点を深く考えさせられました。

編集後記

編集長代行の猛ハッスルのおかげで、「春雷」が二期を
出すことができました。

当面は、内容の充実した採肉誌を定期的に出版するよう
くしていただきたいと考えています。今のところ採肉誌の「
位置付け論議」などは必要ないと考えています。創刊号
を迷わらねているだけで充分だと考えています。

キウ同志、友人の批判を期待しています。
(編集長 一 大明神 一)

▼ 編集長。出張のため、編集長代行の大役を、おま
せつかつて回苦ハ苦。別リおボリ見てもニヤク、ニ
ハぐりならぬ履もできる。(編集長代行)

▼ 原稿に訂してあれやこれやの批判をする——編集
長より「うるさい」との声あり。(おまに官僚さん)

(編集長代行 S)

▼ Y氏「うまきはなれい」とテン十村の風景をかくが
なかなかの好評。

▼ 原稿の提出が全体的に遅れて、かなり遅れた。できる
だけ早く提出しよう。どの採肉誌も敵軍に
に非する武春の「」だと感じし、攻勢の準備は、早く
に二した事はなれからである。

▼ 出張の朝、よくよく原稿がごまかせるような
痛さはらずに長編を書くことが必要です。

空港の建設を共に阻止しよう!

アジア人民と敵対する

新空港建設阻止!

住民への犠牲強要を

一切許すな!

全関西の労働者・農漁民・学生・市民のみならず、
すでに新聞報道などを通じて知っていることを思いますが、現在政
府・運輸省は、この関西の地にアジア最大規模(二千ヘクタール)を目
指した新国際空港を建設しようとしています。そしてこれに反対する声
も日増しに高まっています。

この新空港建設計画を推進する政府・運輸省は、「公共性」、「国民
経済的に考えて重要」、「地域開発のため」、「航空需要の増加から」
等々といった歌い文句をもって、新空港建設は政府・独占資本にとっ
てだけでなくあなたも国民的利益と合致し、新空港が不可欠であるかのよ
うなイメージづくりを図っています。しかし、われわれはよく考
えなければなりません。本当にそうなのかと。

関西新国際空港の建設に絶対反対する大阪地区労働者解放戦線・釜ヶ
崎解放委員会は次のように考えて、みなさんと共に闘うことを呼びかけ
ます。

△国際空港という名の侵略基地▽
大阪空港(伊丹)は、戦時中、日本陸軍航空部隊の関西での拠点とな
り、日本軍国主義の中国・アジア侵略を大いに助けました。戦後は、

壊の結果、ノイローゼになる人も出てきています。

空港周辺の住民からは騒音公害についての訴訟も起こされており、大多数の住民は公害発生源としての空港の存在に強く反対しています。

新空港は候補地として、泉南沖、神戸ポートアイランド沖、明石沖、淡路島があげられていますが、運輸省の手による騒音調査結果は、彼らが勝手に決めた騒音基準すら上まわっています。

公害の日常化は、水俣、イタイイタイ病等を見てもわかるように生命の危険にまで及んでいます。われわれの生活環境破壊＝犠牲の上に立った文明の発展などはないし、もしこのような発展ならわれわれは断固拒否しようではありませんか。

住民への一切の犠牲を許すな！

空港を始めとし、全島が基地化された沖縄人民は日米両帝国主義による「沖縄返還」が、人民の要求である沖縄から軍事基地をなくすものでなく、自衛隊の派兵による日米共同のアジア侵略の前線基地となることを知り、「沖縄返還協定」粉砕の闘いをくり抜けています。

三里塚の農民達は、自分達の土地が政府・独占資本の思惑で強奪されることに断固反対し、しかもその強奪された土地が住民の犠牲をもたらし、アジア人民と敵対する侵略空港建設に供されることに断固反対して今なお日本支配者階級の番犬である機動隊のメチャクチャな弾圧にもひるむことなく持久的な闘いを行っています。この英雄的闘いは、現在までに、政府、独占資本をして、空港規模の大幅縮小(当初計画の半分)をせざるを得ないという事態へと追込んできた。

われわれも関西国際空港の建設絶対阻止の闘いを發起して彼らと真の連帯をしよう！

○経済侵略、軍事侵略に拍車をかけ、アジア人民と敵対する新空港建設を許すな！

○一切の公害、農漁業の破壊等の犠牲と強要を拒否しよう！

○公害発生源の建設を阻止しよう！

○関西のどこにも新空港建設は許さないぞ！

大阪地区労働者解放戦線・釜ヶ崎解放委員会

大阪市北区浮田町十一

関西レボルシオン社

TEL: 06(541)3370

P1	F 般	12行	通うす→通うす
P4	F 般	8行	怒を→怒りを
P10	F 般	16行	結局したとある
P13	F 般	6行	結局したとある
P14	F 般	2行	結局したとある
P16	F 般	7行	結局したとある
P17	F 般	9行	結局したとある
P19	F 般	11行	結局したとある
P21	F 般	10行	結局したとある
P30	F 般	12行	結局したとある
P31	F 般	4行	結局したとある
P32	F 般	13行	結局したとある
P33	F 般	8行	結局したとある
P36	F 般	14行	結局したとある

発行日 一九七二年 二月 一日

発行者 大阪地区労働者解放戦線
全ヶ崎解放委員会

連絡先 大阪市北区浮田町日番地
関西レボリューション社

電話 (〇六) 三七八四七九

(頒 価 50 円)